

第12回「ジャパン・インターナショナル・シーフードショー」

社団法人 大日本水産会の主催のもと、第12回「ジャパン・インターナショナル・シーフードショー」が、2010年7月21日（水）～23日（金）の3日間、東京ビッグサイト東5・6ホールで開催されます。今年のテーマは、「世界へひろがる魚食～たいせつな水産資源を現代の食卓へ、未来の子供たちへ～」。

水産物の取引機会拡大を主な狙いとしながら、水産業界全体の振興・発展のための情報交換と学習の場としての「シーフードショー」ですが、今年は、北は北海道から、南は九州・沖縄、そして海外13カ国1地域から漁業・養殖業者、加工業者が出展を予定、世界的な金融危機の影響を受けた昨年度の開催を大幅に上回る規模での開催が見込まれています。国内外含め、参加者数が約400社（昨年度367社）、総小間数は約530小間（昨年度495小間）に達し、東京会場への初出展企業は、約70社にも及び予定です。

国内からは、魚で地域振興・活性化を図るべく地域や漁連、団体等による参加が増加、水産流通を支えるべく全国の水産市場や卸・流通業者も参加されます。大切な水産資源を未来へ繋げるべく、漁業・養殖業・水産業界に向けた環境への取組みを提案する企業も増加、進んだ内容を確認すると云う点で見所の一つです。

海外からは、アメリカ、イタリア、インド、オーストラリア、韓国、タイ、台湾、中国、ノルウエー、パプアニューギニア、バーレーン、ベトナム、マレーシア、そして初出展のメキシコまで13カ国1地域（日本を除く）が参加予定であり、約120小間（開催規模全体の約20%）を超える規模となる見込みです。中国からの出展は過去最大規模となり、水産加工業が盛んな山東省栄成市の市長も訪日、地元と地元の水産物を自らPRされます。

「シーフードショー」のもと、外食人気ナンバーワンである寿司をテーマにし、恒例となっている「すしEXPO」、最新技術で魚を生産し食料自給率の向上に貢献する「国際水産養殖技術展」も開催します。

同時開催セミナー・シンポジウムは、約40セッションにも及び、3日間にわたり開催。大日本水産会主催によるセミナー・シンポジウムに始まり、イオンリテール食品商品本部、中国山東省栄成市、根室食堂、すしアカデミー、すしざんまい、全国寿司商生活衛生同業組合連合会。海の森づくり推進協会、海洋水産システム協会、近畿大学、国際水産養殖セミナー、水産総合研究センター、水産大学校、東京海洋大学、日本技術士会、他も開催します。

来場者は、3日間で35,000名を見込んでおり、盛況な開催に向け準備を進めています。更に詳しい情報は下記URLにアクセス下さい。

<http://www.exhibitiontech.com/seafood/>